

畜産 FAX 情報 第1号

令和8年4月8日

発行:ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 牧草の凍害、凍上害発生リスクが高い

少雪の影響で、牧草被害の発生が懸念されます。なるべく早く草地を確認し、対処することをおすすめします。

○凍上害: 土壌凍結で牧草の根が浮いてしまう被害。播種が遅かった新播草地では、牧草が小さく根張りが弱いため発生が増加。

○凍害: 低温にさらされ、牧草内の細胞が破壊されて枯死する被害。根雪開始が平年より大幅に遅い場合や、今年のように少ない積雪の状態が長期間続いた場合に発生が増加。

○雪腐病: 凍害などによる損傷部から原因菌が侵入し、生育を阻害。

リスクが高い草地は以下のとおりです。

(凍上害)・草丈10cm以下の新播草地

(凍害)・耐凍性が弱い草種(主にペレニアルライグラス、オーチャード)の草地
・以前、冬損が発生した草地とその近隣

(雪腐病)・雪解けに時間がかかった草地や部分(防風林の影、吹きだまり)

牧草が枯死した場合、「減収」と「草種構成の悪化(ギシギシ、ヒエ、タンポポ、シバムギなど)」によるサイレージ品質の低下が懸念されます。

2 根が浮いている場合は鎮圧

牧草の根が浮きやすい新播草地を中心に確認し、根が浮いている場合は、タイヤローラーかケンブリッジローラーで鎮圧します。トラクターが草地に入れるようになったら、表土が乾いてしまう前に実施します。もし、トラクターのタイヤで土がめくれたり、わだちができるようであれば、土壌水分が高すぎるため、作業を延期します。